

「リゼットのみどりのくつした」

Pg. 4

ある はれたひに、
リゼットは おさんぽに いくことにしたんだ。

Pg. 5

あるきはじめて すぐに くつしたを みつけたみたい！
きれいな みどりの くつした。

「ラッキー！」と リゼットは おもったの。
「こんなに きれいな くつした、 めったに みつけられないよ！」
くつしたを はいて、 またしゅっぱつしんこう！

Pg. 6

すこしもしないあいだに、 リゼットは トムねこと ティムねこに あったんだ！
でもね、 ねこのきょうだいは、 リゼットを からかうのが だいすきな。
「ねえねえ、 これみつけたの！」じしんまんまんに リゼットが いった。
「くつした ひとつだけ？ リゼット、 おバカちゃんだね。 もうかたっぽは どこへ
いったんだい？ くつしたは 2まいで ひとつだってこと しらないの？」

「そっか、 2まいで ひとつなら、 もう1まい みつけないと。」リゼットは そう
いった。

Pg. 7

リゼットは いちばんたかい きをのぼった。 うえからは、
ぜーんぶ みえるんだ。 でも、 ざんねん。
どんなに めを おおきくあけても、
くつしたの はしっこさえ みえなかったみたい。
「わかった！ うみに おちちゃったんだ！」ひらめいた リゼットは、

きをおりて、うみまではしっていった。

Pg. 8

リゼットは つめたいおみずに あたまを つっこんだの。

あ！ さかなさんが およいでる。リゼットに てを かしてくれるかも！

「さかなさん、こんにちは。ちかくに くつした みなかった？」

「みてないね」と さかなさんが こたえた。「でもほら、すごく おおきな コーヒーポットと ちいさな くまでなら みつけたよ！ すごいでしょ？ こんなものまで おみずに おちてるんだよ！」

「うん、すごいね、」リゼットは ためいきをついた。「でも わたしは くつしたを さがしてるの。」

Pg. 9

がっかりした リゼットは、おうちに かえることに したみたい。

「かなしそうね、どうしたの？」と ママが きいた。

「くつしたを みつけたの。でもね、かたほうだけじゃ ダメなの。2まいないと いけないの。」と リゼットは はなした。

Pg. 10

「そうね。」ママは いった。「くつしたは 2まいで ひとつだものね。くつと 同じように 2つあって ひとつ。きれいに してあげるから かしてちょうだい。おちてるくつしたを ひろって はいちゃ ダメだよ。きたないじゃない。」

リゼットは すわって くつしたが かわくのを まったの。

Pg. 11

「それ きみの ぼうし？」

リゼットは ふりむいた。ともだちの バートだ！

「ぼうしじゃないよ」リゼットは こたえた。「くつしただよ」

「そっか！そんな ぼうしを かぶるのが ぼくの ゆめだったんだ。かぶってみても いいかな？」バートは きいた。

「いいよ」

Pg. 12

リゼットは おおわらいしたんだ。「わたしの くつした にあうね！」

「見てのとおり、いいぼうしに なるんだ」と バートは いった。

「そうだね。 2つ もっていたら 1こ あげたのに」と リゼットは いった。

トムねこと ティムねこが おうちの まわりを ちいさい あしで しずかに あるいてるみたい。

「ピンポン！」と ティムねこが よんだ。「リゼット、これを みつけたんだ… きみの もうかたほうの くつした！」

Pg. 13

「どこに あったの？」リゼットは きいた。

だけど ねこきょうだいは ぜんぜん こたえてくれない。

「こっちに きて とってみなよ！」と はしりながら さげんだ。

リゼットと バートは いそいで ふたりを おいかけたの。

Pg. 14

「ハア、つかれた！ちいさいのに よくはしれるね」トムねこが いきを はきながら いうと、

ティムねこが「それでも くつしたは とりかえせないけどね」と いった。

「ぽちゃん！」

Pg. 15

リゼットと バートは いきを きらしながら おいついたみたい。

「よし」と リゼットが いった。「くつしたを ちょうだい」

「なんのこと？ ぼくたち もう くつした もってないよ。 ね？ とんでいったんだよ」

Pg. 16

バートは、 リゼットの そでを ひっぱった。

梅田安菜、ジェンキンス藍也那、古道茉奈

「わすれよう、いじわるな うそつきのことなんて。 くつしたは とばないもん」

「ずるい」

「これじゃあ、 2つめの ぼうしは にどと てにはいらないよ。もしよかったら、 わたしの ぼうし もうすこし かぶってていいよ。 いえに ついたら かえしてね」

「やさしいね」 パートは とても ちいさなこえで そうこたえたの。

Pg. 17

いえに かえると、 サプライズが まっていたんだ！ リゼットの おかあさんが あたらしい くつしたを あんできていたの。 みどりのくつした。もうかたほうと そっくりの。

リゼットは ジャンプするほど うれしくて、おかあさんに だきついたんだ。

「あたまに かぶるの？」おかあさんが きいた。「パートのように？」

「もちろん」リゼットの めは キラキラしていたの。

「これでわたしたち、ふたりとも ぼうしがあるね！」

パートは うれしさのあまり おどりだしたんだ！

Pg. 18

ねるじかんになって、 パートは いえにかえっていった。

リゼットは ぼうしを かぶりながら ねることにしたの。

ともだちのことを かんがえてみた。 パートも ぼうしを かぶりながら ねてるだろうな。 ぜったいに。

Pg. 19

けれど、 このなかで いちばん しあわせな よるを すごしているのは さかなさん。ちいさなくまでと、 おおきなコーヒーポット、 そして ぴったりなみどりの ねぶくろを みつけたみたい。

Pg. 21

こんなに すてきな くつしたは めったに みつけられないよ！

梅田安菜、ジェンキンス藍也那、古道茉奈

梅田安菜、ジェンキンス藍也那、古道茉奈